

知識基盤社会を支える情報技術論文特集の発行にあたって



知識基盤社会を支える情報技術論文特集編集委員会

副委員長 阿草 清滋

我々の生活のあらゆる活動はコンピュータで支援されてきており、情報技術は生活の利便性の向上に貢献している。また、我々の社会は情報システムにより支えられ、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として情報システムが重要な役割を果たす社会、知識情報社会と呼ばれる社会へととなりつつある。

この情報システムの根幹をなすコンピュータシステムやソフトウェアなどの情報技術は知識基盤社会のキーであり、その役割は今後ますます重要になっていくと考えられる。これら重要な情報技術に関して発表・討論する場として、本会情報・システムソサイエティ (ISS)、ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 及び情報処理学会が主催する「情報技術フォーラム (FIT)」が2002年より毎年開催されている。和文論文誌Dでは、広くコンピュータのハードウェアとソフトウェアに関係する情報技術に関する研究で、FIT2008 (第7回情報科学技術フォーラム) で発表された研究成果及びそれらを発展させたものを中心とした特集号を以下の編集委員会を構成し企画した。

本特集への投稿は15編であり、感性情報処理、ネッ

トワーク、文書処理、画像処理、画像認識、論理設計、テキストマイニング、モバイルコンピューティング、生体情報処理、協調作業などの幅広い研究分野からのものであった。この中でFIT2008での発表に関連するものは3編であった。今回4編の論文が学会の査読基準に基づき厳正な審査を経て、本特集に採択された。

FITでの発表論文をよりレベルの高いものに仕上げ、て学会誌に掲載するという特集号の趣旨を理解し投稿して頂いた研究者の方々、また限られた時間の中で精力的に査読作業に取り組んで頂いた編集委員、査読委員の方々にこの場を借りて感謝申し上げる次第である。特に、幹事の室田先生には格段の御尽力を頂き、記して謝意を表したい。

阿草 清滋 (正員:フェロー) 1970京大・工・電気第二学科卒。1972同大大学院・工学研究科・電気工学第二専攻修士課程了。同博士課程へ進学。1974より同情報工学科助手。同講師、助教授を経て1989より名古屋大学教授。現在、同大大学院情報科学研究科教授。工博。専門分野はソフトウェア工学、ソフトウェア開発方法論、知的開発環境、ソフトウェアデータベース、仕様化技法、再利用技法、マンマシンインタフェース。情報処理学会、ソフトウェア科学会、IEEE、ACM各会員。

知識基盤社会を支える情報技術論文特集編集委員会

委員長	木戸出正継
副委員長	阿草清滋
幹事	駒谷昇一・室田真男
委員	入江英嗣・梅津高朗・鈴木優・南里豪志 西野由利恵・西本卓也・堀田一弘